

Kansai University  
Library Forum

関西大学

図書館フォーラム

2011

第16号





Kansai University  
Library Forum

関西大学

図書館フォーラム

2011

第16号

## 編集後記

東日本大震災により被災された多くの方々には心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

今回の編集の間に、東日本大震災が発生しました。図書館関連の震災に関するニュースや各種情報は国立国会図書館カレントアウェアネス・ポータル (<http://current.ndl.go.jp/>) 等のサイトに膨大な数のスレッドで詳細に掲出されています。災害とそのリスク管理という事象がこれほど重大な社会問題かつ関心事になるとは、誰も予想もしなかったのではないのでしょうか。でも、いつかはこれまで信頼してきた安全な基盤というものが砂上の楼閣のように崩れさるのではないかという予感というか悪夢のようなものはあったかもしれません。

しかし、そのようなサイトなどで報告されていることで、混乱の中で懸命に活動している被災地の図書館の様子を知ると何だか嬉しくなりますし、被災地から遠方であっても支援のために資料や情報の提供をしたりしているのを見ると、こういう活動のしかたもあったのかと感心させられたりします。手を差し伸べたり、知恵を結集するというときに、ネットワーク（もちろんコンピュータによる情報流通だけではなく、人的交流や物資の輸送などさまざまな次元での交換に関するインフラを指します）の真只中に居ることが重要に思えてきます。

ところで、当誌上では館員の研修報告を収録してきており、その研修のときに見聞した講演内容とか、他の図書館の館員の活動や、ディスカッションやワークショップで展開した思考の足跡についての報告などがあります。それらを拝読するといつも、当誌がネット上で読めることで、その他の図書館の館員との情報交換のパイプの一端となって、現在の活動に返ってくればいいのになあと願うのです。例えば、当誌がネット上で公開されているのを、他の図書館の館員の方がご覧になって、当該の研修に参加された人も読まれていて、過去の研修のときの記憶を呼び起こして何か連絡をくださることはないだろうか。初めて見た方でも内容についてレスポンスをくださるかもしれない。館員の活動について情報発信していることが、どこかで良い発展をしてくれないだろうか。そして、こちらからアプローチする場合のきっかけにもならないだろうか…といったように。

ネット上で知的交流を展開させるには、ブログとかツイッターのようにもっとライブでリアルな手段もあるのですが、当誌のように整然と企画され静的に掲出しているものも必要な気がします。図書館が現実と向かい合うために、我々館員はこうしたメディアにもう少し希望や活路を求めてみるべきではないかと思う今日このごろです。

(藤岡)

『図書館フォーラム』を図書館ウェブサイトで公開しております。次の [URL] でアクセスすることができます。

URL [http://web.lib.kansai-u.ac.jp/library/about/lib\\_pub/](http://web.lib.kansai-u.ac.jp/library/about/lib_pub/)

---

図書館フォーラム編集委員  
赤木一夫・佃 彦志・藤岡 豊

---

## 関西大学 図書館フォーラム 第16号 (2011)

平成 23 年 6 月 20 日印刷  
平成 23 年 6 月 30 日発行

編集・発行 関西大学図書館  
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35  
TEL 06-6368-1157  
<http://web.lib.kansai-u.ac.jp/library/>

制作 (株)遊文舎  
〒532-0012 大阪市淀川区木川東4-17-31  
TEL 06-6304-9325

---





Kansai University  
Library Forum